

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第3号）について（送付）  
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導等に活用ください。

記

1 調査概要

- (1) 平成22年5月6～19日に、県内15地点の麦またはイネ科雑草からヒメトビウンカを採集し、高比重ラテックス凝集反応法によりイネ縞葉枯ウイルス保毒状況を調査した。
- (2) 保毒虫は調査した全ての地点で認められた。保毒虫率は平均5.4%（平年4.2%）と平年よりやや高かった（表1, 図1）。

2 今後の留意点

- (1) イネ縞葉枯病の発生を防ぐためには、病原ウイルス（イネ縞葉枯ウイルス）を媒介するヒメトビウンカの防除が重要である。
- (2) ヒメトビウンカの第一世代は、麦やイネ科雑草で増殖し、6月中旬に羽化する。麦の収穫が始まると苗床や本田へ移動し、増殖を繰り返す。第二世代成虫は7月中旬、第三世代成虫は8月中旬に発生する。
- (3) イネ縞葉枯病の被害は感染時期が早いほど大きい。防除の重点は、育苗期から本田初期に置く。
- (4) 各種薬剤に抵抗性を獲得したヒメトビウンカの発生が確認されている。防除薬剤については、平成22年2月16日付技術情報第16号(<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H21/yosatsu/gijyutu100216.pdf>)を参考に選定する。
- (5) 第一世代の増殖場所となる麦の栽培面積が広い地域では、ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の発生に注意する。
- (6) ヒメトビウンカやイネ縞葉枯病の発生状況については、発生予察情報等で提供する。

熊本県農業研究センター生産環境研究所  
病虫害研究室予察指導係（病虫害防除所）  
担当：東・山口 TEL 096-248-6490

表1 平成22年度 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

地点	植生	採集日	検定数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	昨年の 保毒虫率 (%)
熊本市富合町新	麦	5/6	96	5	5.2	5.2
熊本市城南町碓	麦	5/6	96	5	5.2	8.5
玉名市北牟田	麦	5/7	96	9	9.4	8.3
山鹿市南島	麦	5/7	96	5	5.2	11.5
菊池市赤星	麦	5/6	73	3	4.1	4.2
菊池市七城町甲佐	麦	5/16	96	6	6.3	3.6
合志市栄(農研センター)	麦	5/13	94	3	3.2	14.6
大津町灰塚	麦	5/16	96	4	4.2	2.1
嘉島町上六嘉	麦	5/19	63	4	6.3	6.0
甲佐町糸田	麦	5/6	96	3	3.1	1.5
御船町小坂	麦	5/6	67	5	7.5	6.3
氷川町若洲	麦	5/13	96	9	9.4	3.1
八代市郡築	イネ科雑草	5/13	83	5	6.0	-
あさぎり町上	イネ科雑草	5/17	96	3	3.1	0.0
天草市河浦	イネ科雑草	5/14	84	2	2.4	0.0
計(保毒虫率は平均)			1,328	71	5.4	

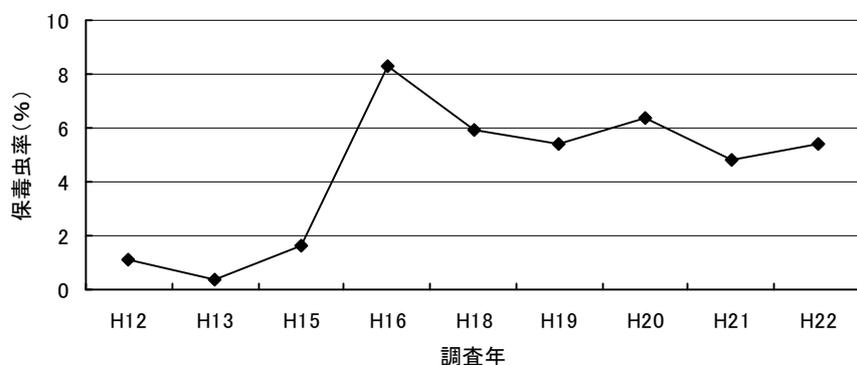


図1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移  
注) H17, H14は調査していない。